

国語 第1学年 あいうえおで あそぼう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

平仮名の並びと音の響きを確かめ、言葉遊び歌を楽しむ。学習の記録は、音の並びと集めた言葉、その意味の記録である。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)イ	イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。

単元の目標

平仮名を読み、書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

平仮名の並びと音の響きを確かめ、言葉遊び歌を楽しむ学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平仮名を読み、書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①平仮名の並びと音の響きを確かめ、言葉遊び歌を楽しむ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全3時間（知・技3）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。音の並びを確かめ、既習の言葉を用いた短い独自の並びを試して聞き合う。選んだ言葉を平仮名で書き、文字の順と発音を対応させて読み返す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：平仮名を読み、書くことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」 【めあて】平仮名の並びと音の響きを確かめ、言葉遊び歌を楽しむ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音から始まる言葉を集められる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」 教科書の言葉遊び歌を手元で音読する。音の並びを確かめ、既習の言葉を用いた短い独自の並びを試して聞き合う。選んだ言葉を平仮名で書き、文字の順と発音を対応させて読み返す。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音から始まる言葉を集められる。 ・声に出すと音の並びを確かめやすい。	教科書の音の並びを声に出し、既習の文字から始まる言葉を集める。思い出にくい児童には身近な物の絵を示し、同じ音で始まるか確かめる。 想定する難しさ：五十音の順を唱えるだけで語の意味や音との関係を見ない。 評価では、平仮名を読み、書いているかを、音の並びと集めた言葉、その意味の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 平仮名を読み、書いている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 音の並びと集めた言葉、その意味の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・声に出すと音の並びを確かめやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ音から始まる言葉を続けると、どんな響きになりますか」。中央は、音の並びと集めた言葉、その意味の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

五十音の順を唱えるだけで語の意味や音との関係を見ない。この難しさには、教科書の音の並びを声に出し、既習の文字から始まる言葉を集める。思い出しにくい児童には身近な物の絵を示し、同じ音で始まるか確かめる。評価では、平仮名を読み、書いているかを、音の並びと集めた言葉、その意味の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録
音の並びと集めた言葉、その意味の記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと
最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1 年上巻」64行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

